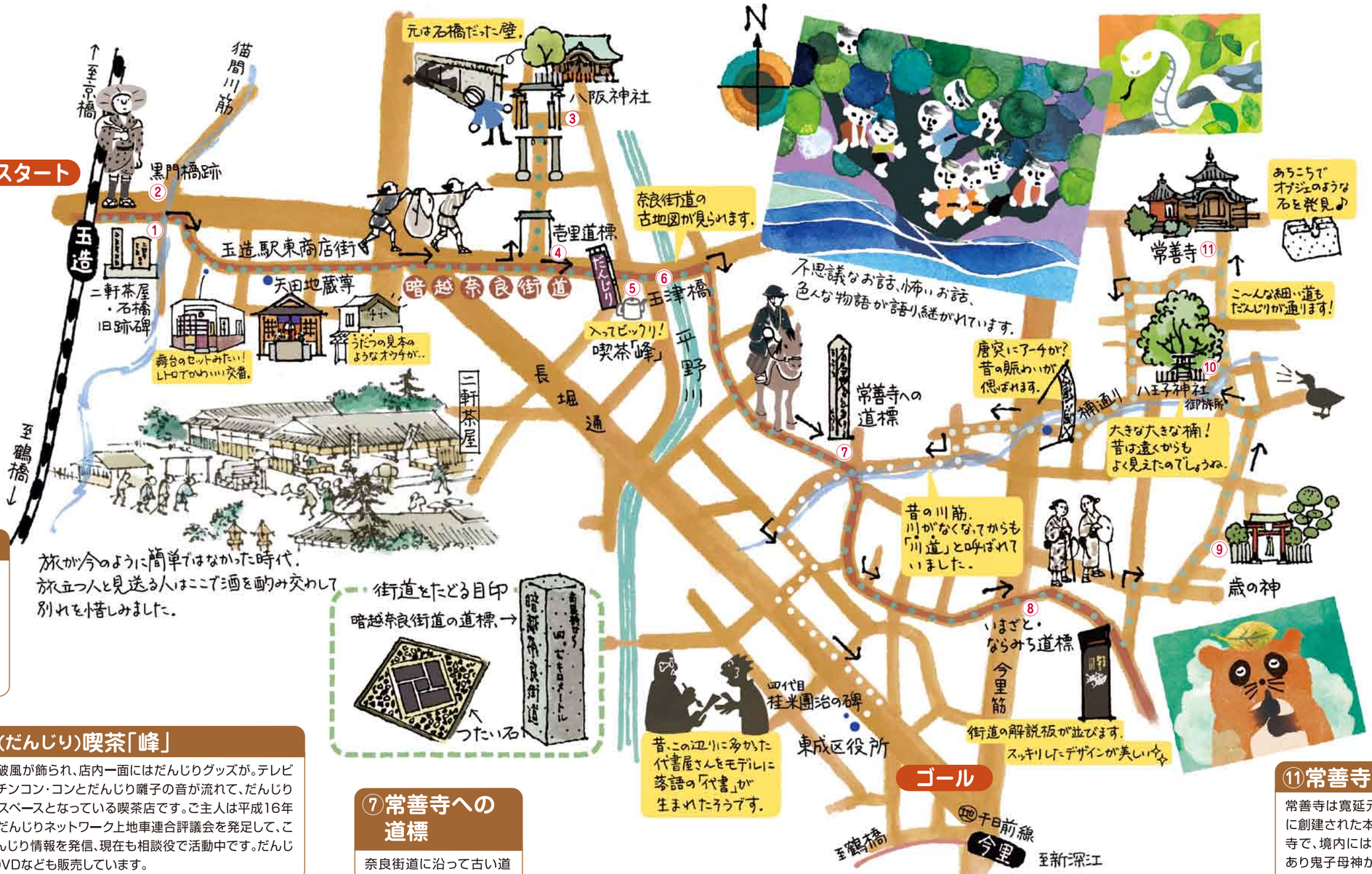
大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪 OSAKA あそ歩(ぼ) ASOBO ®

二軒茶屋から暗越奈良街道周辺を歩く

～黒門橋と、樹齢1300年以上の大楠と、常善寺と～

古代から大坂と奈良を結ぶ主要街道だった暗越奈良街道。数多くの旅人が行き交い、江戸時代には二軒茶屋が立ち並び、明治には馬車発着所なども設けられました。戦後の開発でずいぶんと都市化しましたが、ちょっと散策してみると江戸時代の道標や、道頓堀芝居の演目を協議したという寺院、樹齢1300年以上という大阪市内最古の大楠など、旧街道の趣きが濃厚に残っています。



①二軒茶屋

江戸時代、奈良街道での人の往来が盛んとなり、この街道の起点であった玉造の南側に鶴屋秀次郎の「つる屋」、北側に枡屋芳兵衛の「ます屋」の二軒の茶屋が建てられました。旅人の休息所として大いに繁盛した事が伝えられ、二軒茶屋として広く世に知れ渡りました。しかし明治以降は鉄道網の発達などで街道の人の往来が減少し、「ます屋」は明治のはじめ頃に廃業。「つる屋」は牛肉屋に転業して大正末頃まで続いていましたが廃業しました。

②黒門橋跡

この茶屋のそばを流れていた猫間川に、宝永8 年(1711) 、幕府の命によって黒門橋が架けられました。この付近にあった大坂城の玉造門が黒い門であった所から、黒門橋と名づけられたという伝承があります。当時は珍しい石でつくられたものでしたので、通称「石橋」ともいわれました。昭和5年(1930)に建立された「玉造名所・二軒茶屋・石橋旧跡」と刻まれた碑は、廃橋となった石橋の一部で作られました。

③八阪神社

旧中道村の氏神で、藤原道長がこの地に別邸を設けて祀っていたものを、仁安元年(1166)、里人が社殿を再興し、天正12年(1584)現地に移転したと伝えられています。もと午頭天王白山権現と称しましたが、明治5年(1872)八阪神社と改称しました。昭和2年(1927)、大阪市より廃橋となった黒門橋(石橋)が石材として寄贈され、現在は神社の記念碑や西側の玉垣の一部に使用されています。また6枚の内1枚を近くの八王子神社に譲り、それも記念碑になっています。

④壱里塚

八阪神社入口に「暗越奈良街道距高らい橋元標壱里」の道標が建っています。江戸時代は暗越奈良街道の起点は二軒茶屋であったのですが、明治9年(1876)の道路制度公布に伴い、高麗橋東詰めに「里程元標」を設置。起点が高麗橋となり、そこから壱里(4キロ)の地点であるという意味です。

⑤地車(だんじり)喫茶「峰」

入口左側に破風が飾られ、店内一面にはだんじりグッズが。テレビからもチキチンコン・コンとだんじり囃子の音が流れて、だんじり好きの交流スペースとなっている喫茶店です。ご主人は平成16年(2004)にだんじりネットワーク上地車連合評議会を発足して、この店からだんじり情報を発信、現在も相談役で活動中です。だんじりグッズやDVDなども販売しています。

⑥玉津橋

奈良街道の平野川に架かっている橋で『摂津誌』(享保20年・1735)にも橋の名がみえます。豊臣時代には大和・伊勢地方の諸大名の往還道になっていて、早くから架かっていたと考えられています。江戸時代、橋の東詰やや下流に本庄村の船着場があり、明治35年(1902)には中河馬車株式会社の馬車発着所が設けられ、ここからひょうたん山まで馬車が通っていました。現在の橋は歴史の橋として昭和61年(1986)12月に架け替えられたものです。江戸時代の絵地図(文化2年・1805の「増修改正摂州大坂地図」)をエッチングしたパネルが6枚欄干に取り付けられ、歩道部分は暗峠につながる雰囲気を出すために石畳風に仕上げられています。

⑦常善寺への道標

奈良街道に沿って古い道標が数多く残されていますが、大今里西1丁目5番先に「これより左三丁常善寺」の道標があります。このあたりは大正中頃までは人家も少なく、西今里村の草屋根の上には、緑の茂る巨大な楠が見えました。この地点は大今里村、本庄村、西今里村へと行く分かれ道であったので、追分ともいわれました。

⑧いまざと・ならみちの道標

道標は昭和62年(1987)に、レリーフは平成11年(1999)に個人によって施工されたものです。足元の置石(御影石と思われる)は、ちょんまげを結った顔が刻まれています。

⑨歳の神(塞神)

一本の藤の木とともに、今里小学校の裏側にひっそりと鎮座しています。歳の神は疫病や災難を防ぐ神とされています。当地の歳の神は天正11年(1583)、豊臣秀吉が大坂城築城時に、護り神としてお祀りしたものの1つとされています。

⑩八王子神社御旅所(通称楠神社)

八王子神社は旧西今里村の氏神で、元は八釼(やつるぎ)神社といいましたが、明治42年(1909)に八王子神社に合祀されて御旅所となりました。樹齢1300年を数えるという楠があり、幹周は11メートル、樹高は25メートルあり、平成16年(2004)10月に大阪市保存樹に指定されました。明治18年(1885)の淀川大洪水で、この地域一帯が水没したさい、当時の西今里村村民40数名は、この楠にやぐらを組んで、3日間ほど耐え偲び、難を逃れたと伝えられています。

⑪常善寺

常善寺は寛延元年(1748)に創建された本門法華宗の寺で、境内には六角御堂があり鬼子母神が祀られています。江戸時代には大坂の芝居興行と深い関わりをもち、道頓堀五座の芝居の演目は、幕府の代官や役者と関係者が常善寺に集まって決定するのが常でした。また檀家衆は本町あたりの商家が殆どで往時は大変賑わったといいます。この常善寺と道標を結ぶ道路が、旧西今里村の本通(メインストリート)です。

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 http://www.osaka-asobo.jp　または 大阪あそ歩 でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。